

中国の一般家庭

吉村千陽

今回は“五一節”の休み中に訪れた中国の一般家庭について書きたいと思います。

いつもよくしてくれている中国人の友人が実家に招待してくれたので、山西省の南部に位置する“闻喜西 (wenxixi)”という田舎町に行ってきました。

私達のいる太原から高鉄（新幹線）で 2 時間半の距離で、比較的都会な太原に比べると自然豊かで、空気も澄んでいて、静かな場所でした。闻喜西駅に着くと先に到着していた友人と友人のお父さんとお母さんが車で迎えに来てくれて、一緒に火鍋を食べに行きました。その後、親戚の家によって少しお話をしてから友人の家に向かいました。友人曰く友人の家は一般的な中国の家らしく、門の扉はとても大きく両脇と上に対聯が貼ってあり、中庭を囲むようにして東西南北に部屋がありました。トイレ、浴室、キッチン、など水回りは外にあり、水は基本大きな樽に雨水を貯めて使用しているようでした。次の日友人の親戚の家に家族が集まり歓迎会開いてくれました。友人のお母さんとおばあさんが色んな種類の家庭料理をたくさん用意してくれて、みんなでお喋りしながら食事を楽しみました。夜は食後の運動を兼ねてみんなで公園まで散歩にいきました。夜 8 時をすぎているのに小さい子供からお年寄りまで沢山の人が公園でダンスをしたり、バスケットボールをしたり、お喋りをしたり、とても賑やかでした。最終日帰る前にさよならの挨拶をしに親戚の家によるとお土産で袋いっぱい肉まんや餃子を持たせてくれました。初めての一人旅で、行く前までは少し不安な部分もありましたが、友人の家族が外国人の私を暖かく迎えてくれて、とてもいい滞在になりました。観光地や名所などは訪れませんでした。学校の授業だけでは学ぶことのできないことを経験することができました。もう一つ今回の旅で感じたことがあります。太原南駅に着いた時、寮に着いた時、留学生とあった時、我が家に帰ってきた気持ちになりました。今回の旅で太原が私の中で居心地のいい場所になってきていることに気づかされました。



高鉄の闻喜西駅



友人の家の近くの風景



家の門



朝食